

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第112号(2016. 7. 1)  
事務局川西地区自主防災会

「総本山善通寺はお寺として  
出来る限りのことをさせていただきます」

総本山善通寺

法主 檜原 禅澄

## 減災に対する思い

東日本大震災から早5年余りの歳月が過ぎてしまいました、あの震災、太平洋の海波は山となり、悪鬼と化して街路をのみほし、人命を断じました。

あまたの方が犠牲になられ命を落とされました、今だ多くの行方不明の方々もいらっしゃいます、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さらには、家屋を、財産を一瞬にして失われ、人々が幸せに暮らしていた街さえも消え去りました、余りにも悲しく心痛む出来事です、現地はまだまだ復興の途中です。

5年余りの歳月が経過しても今だその現実私たちの脳裏に鮮明に残っています、その矢先、今回の熊本地震が発生しました、九州地方の広範囲にその被害が及び、貴重な人命と財産を失い悲しみ深い中、現地では余震が続き心安らぐことがありません。

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますが、忘れぬいとまもなく再び大震災が発生してしまいました、現実はそうではありませんでした。

近年、地震はもとより局地的集中豪雨などあらゆる自然の災害が各地で数多く発生しています、私たちは自然災害に対して立ち向かう力は微力に過ぎません。

しかし、減災とは予め被害の発生を想定し、災害時の被害を少なくするための取り組みに他ありません。

自然災害発生の被災体験から生まれた取り組みと自然災害に対するあらゆる注意喚起を後世に伝え、被災経験のもとにその現実を伝え残すことが私たちの使命であると思われれます。





私は思います、減災とは、来たるべき災害に対してその被害を出来る限り小さくする取り組みです、それはあらゆる災害を想定し、先ず「自分の身は自分で守る」言い換えれば「自らが如何に生き残るか、その生き残るため」の知識とその訓練を平常時にしておくことが自助対策であり、減災の第一歩であると思います。命あればこそ共に助け合う（共助）につながるはずです。

地震はもとより、自然災害に対する知識と訓練に必要とされるマニュアルを手元においておくことはもちろん、災害時携帯品も常備しておくことが必定でしょう。

## 総本山善通寺の防災・防火対策

総本山善通寺は国宝の品々をはじめ数多くの堂宇があり、その多くが築50年以上の木造建築です。

その建物の多くは登録有形文化財に認証され、なかでも金堂（本堂）と五重塔は国指定の重要文化財となっています。

また、宿坊を有し、年間数多くの巡拝者が利用しているため、現在4名の防火管理者資格を持つ職員を置き、寺務所内には全建物を対象とした、複合火災報知設備を設置、さらには屋内外消火栓設備、スプリンクラー、煙感知器、など各種の防災対策設備を講じています。

火事をださぬことは当たり前ですが、もし火災が発生すれば初期消火が最も重要です、消防署職員による指導も大切です、しかしながら本山職員に地区消防団入隊経験者がいます、常日頃にはその経験者の指導の下、定期的な各種防火設備の点検をはじめ避難誘導訓練や屋内外の消火栓の管操訓練、消火器の取り扱い訓練等の初期消火訓練を実施しています。

文化財は、火災によって損傷、焼失すれば再び回復することが不可能です、その為

の適切な管理、日頃の努力が求められます。

寺内の重要文化財、国宝、登録有形文化財保護をはじめ、所有する貴重な品々及び全建造物を視野に入れた保護対策、初期消火対策の責任ある充実に傾注いたしております。

## 今後の課題

建造物火災に対して今だ未設置の大型防火水槽の設置、必要とされる箇所に放水銃の設置、それに伴うエンジンポンプ設置等、防火設備の充実を計り、貴重な文化財保護のために各設備の充実をはかる責務があります。

さらに、記憶に新しい阪神淡路大震災、東日本大震災、先日発生の熊本震災などの教訓のもと、予想される東南海沖地震に対して専門家による対策研修の実施のもとに地震災害から貴重な文化財をまもるための防災、減災対策のあり方の構築も重要です。

善通寺として不幸にも地震をはじめ、自然災害、人的災害などが時として発生した場合は支援活動として避難場所、避難地の提供をさせて戴くつもりです。

また、お寺は祈りの場である事はもちろん、心の癒やしの場でもあります、被災された皆さんの心のケアが出来るならばこの上ないことであり、そうあるべきところがお寺なのですから。



最後になりましたが、東日本大震災はじめ熊本震災など、数多くの犠牲になられた方に対してあらためてご冥福を申し上げますと共に、被災をされた皆様方、該当地域の一日も早い復興を心より祈念申し上げます。

# 事務局だより

平成28年 7月

今月の事務局だよりは去る5月22日（日）実施された平成28年度土器川総合水防演習についてお知らせします。

## 平成28年度土器川総合水防演習が行われました。

### 1. 訓練主体（主催者）

国土交通省四国地方整備局の主催で、香川県（土器川）で開催されるのは、4年に1度（オリンピック開催年）です。

### 2. 参加機関

香川県をはじめ、丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町、琴平町、多度津町、まんのう町、この行政エリアの消防本部、更には陸上自衛隊、香川県警、日本赤十字、香川県医師会、高松气象台、香川大学、今回から香川県防災士会、川西地区自主防災会は12年前、平成16年度から参加しています。



### 3. 川西地区自主防災会の役割

(1) 水防工法実施訓練として「土のう作り」と越水対策工として「簡易水防工法」を実施しました。

(2) 避難所設営訓練では、自主防災会保有の軽トラック3台で設営用品を指定場所まで搬送し「避難所」看板設置しました。

#### (3) 避難訓練

土器川氾濫危険情報が香川河川国道事務所より発出され、丸亀市の避難勧告にもとづいて、地域住民の避難行動を行うという訓練で、近隣自治会（6



自治会)から約50名が参加、丸亀警察署の誘導で、リヤカーや車イスを使用しての避難訓練を行ないました。

(4) 救護訓練

傷病者役(10名)となって、香川県医師会の救護班から応急医療を受ける演習にも参加しました。

(5) 防災資機材の展示

大型発電機と造水機(真水1t/1時間)並びに熊本県被災支援活動の写真展示を行いました。



#### 4. 演習に参加してのまとめ

- (1) 訓練のための訓練 本番までに2回のリハーサルを行うという念の入れようです。このため、開会、閉会時の集合隊形は絵になっています。
- (2) 消防関係者の訓練が多いのは理解(水防演習)できますが、今後はもっと自主防災会の参加増が望ましいと感じた。
- (3) 川西自主ぼうとしても、今回30才代1名、20才代1名含め17名参加しましたが、4年後はもっと若い人の参加を増やしたいと思っています。

以上

#### 編集後記

今月の防災減災の輪は、総本山善通寺 法主 樫原様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。